

## 大宮若松神社境内地およびその周辺地域（南山田町）

- ・ 地区面積：8, 796 m<sup>2</sup>
- ・ 概要：指定予定地区は沖積平野に位置し、周辺部の半分は住宅地と隣接し、残りの半分の区域は水田に接している。指定予定地の全体面積は8, 796 m<sup>2</sup>で、そのうち境内地が3, 113 m<sup>2</sup>、樹林地が5, 683 m<sup>2</sup>となっている。
- ・ 樹林：樹林地は、コジイ優占のコジイ林と、ナラガシワ、エノキ、カスミザクラ、落葉広葉樹が混交したヒノキ・スギ植林となっている。  
コジイ林は、本殿裏の古墳とみられる27m×43mの盛土部分に、コジイ優占群落として発達している。このコジイ林の種組成は、高木層にコジイが高植被で優占し、ほかにクロガネモチ、クスノキ、ヤブニッケイ、アラカシが混生して、植被率は98%の高植被となっている。亜高木層は植被率が40%と低く、クロガネモチ、サカキ、モウソウチク、ヤブツバキの4種が低い優占度で生育し、低木層も植被率は50%と低く、サカキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、シュロ、イヌビワ、クロガネモチなどの生育が目立つ程度で、ほかにカクレミノなど5種が点在する。草本層の植被率は、上層の植被率、特に高木層の植被率が極度に高いため50%であり、林床植生は貧弱となっている。一方、出現種数は27種と比較的多くなっているが、これは林縁の陽地性植物や林内の陰地性植物、人為影響下の人里植物などが混生しているためである。  
一方、ヒノキ・スギ植林は、比較的大径木のナラガシワ、エノキ、カスミザクラ、などの落葉広葉樹やコジイが混生するものの、大部分が植栽された樹高13m前後のヒノキが優占し、部分的にスギも植栽されている。また、このヒノキ・スギ植林は、下草刈り等の維持管理が頻繁に行われているため、階層構造が形成されていないうえ、林床には人里植物を中心に林縁植物や外来種、先駆植物、湿生植物などが混生している、典型的な代償植生の姿を呈している。
- ・ 大径木：大径木は、主として古墳部分のコジイ林に生育している、胸高幹周が1m以上のものを測定した。その結果、胸高幹周が1m以上のものはコジイが11本、クロガネモチが2本、ヤブニッケイ、クスノキ、アラカシが各1本の、合計16本であった。  
胸高幹周が最大のもはコジイの3.97m、次いでコジイの3.80m、3.69m、3.36m、3.16mで、他のコジイ6本は3メートル以下である。また、クロガネモチ2本は1.51mと1.45mであり、ヤブニッケイは1.58m、

クスノキは 2.10m、アラカシは 1.72mとなっている。

植林地の胸高幹周の測定は、エノキ 2 本の 2.91m と 1.71m、カスミザクラの 1.89m、ナラガシワの 2.49m、ヒノキの 1.41m の、5 本についてのみ測定した。

- ・総合評価：指定予定地区のコジイ林は、コジイをはじめとして、クロガネモチ、サカキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、ベニシダ、テイカカズラなどの自然植生構成種が優占しており、そのうえ大径木のコジイの優占によって特徴づけられる自然度の高い常緑広葉樹林である。また、古墳とともに長年にわたって保護されてきたものであり、林床には『滋賀県レッドデータブック 2010 年版』の希少種であるカラタチバナも生育していることから、コジイ優占の極めて貴重な極相常緑広葉樹林である判断される。また、コジイ林の三方は、ヒノキ・スギ植林によって囲まれる形になっており、いわばコジイ林を保護していることから、このヒノキ・スギ植林も含めて自然環境保全地区として指定すべきである。